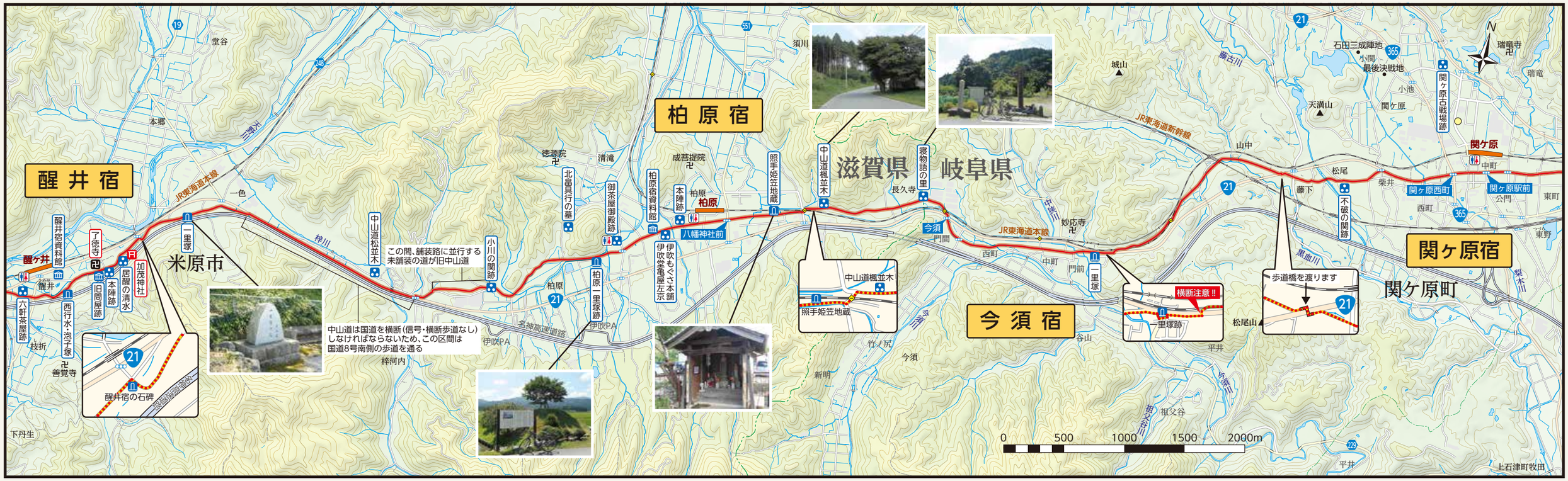
居醒の清水の醒井から伊吹もぐさの柏原宿、国境を過ぎ、天下分け 目の関ケ原へ

醒井から関ヶ原へ約12km

雲仙山からの湧水・居醒の清水が流れる清流のまち醒井から御茶屋御殿跡を過ぎ、いよいよ、近江の国の最後の宿・柏原へ。国境の寝物語の里を過ぎると岐阜の宿、今須から関ケ原へとたどります。



醒井宿

江戸日本橋から数えて61番目にあたり、古代の東山道の頃にはこのあたりに横河の駅家が設置されており、中世の東海道の頃すでに宿の機能を果たしていたようです。江戸時代初期は幕府の直轄地でしたが、享保9年（1724）以降は、大和郡山藩領となりました。宿場の規模は東西8丁2間（約876m）で本陣、脇本陣各1、旅籠11軒、人口は539人、総戸数138戸で、宿場の西側には彦根藩領との境を明示するため六軒の茶屋が建てられていたことから六軒町の地名が残っています（現在、茶屋はありません）。湧水「居醒の清水」から流れる地蔵川に咲く梅花藻で知られています。

了徳寺

石龍山了徳寺の境内に、周囲の家並みを圧して、ひときわ高くそびえるイチョウの樹は、「オハツキイチョウ」と呼ばれています。毎年8月から11月上旬頃に数多くの実を付けますが、その一部が、葉の面になるところからこの名がつきました。大変珍しいもので、国の天然記念物に指定されています。

醒井宿資料館（旧醒井宿郵便局）

ヴォーリズの設計による建物。大正時代に建築されたモルタル張り木造二階建ての擬洋風建築。昭和48年（1973）まで郵便局として使われていました。現在は、醒井宿資料館となっています。

- TEL：0749-54-2163
- 開館時間9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 入館料：一般２００円
- 休み：月（祝日の場合は翌日）、年末年始

十王水

湖東三名水のひとつ。平安中期の天台僧浄蔵により水源がひらかれました。初めは浄蔵水と呼ばれていましたが、泉の近くに十王堂があったことから十王水と呼ばれるようになったといわれています。

梅花藻

清流でしか育たないキンポウゲ科の水生多年草。梅の花に似た白い小花を咲かせることから『梅花藻（バイカモ）』の名が付きました。開花は、7～8月頃。夏の終わりの地蔵川は、川沿いに植えられたサルスベリの花が落下して、紅白に彩られます。

照手姫笠地蔵

常陸国の城主小栗判官助重が毒酒を飲まされ餓鬼阿弥になったとき、照手姫は地蔵に笠をかぶせて平癒を祈願。地蔵からのお告げを聞き、療養のため熊野へ行きました。その甲斐あって小栗は平癒。長久寺に蘇生寺を建立し、地蔵をその寺に祀った、という中世の仏教説話に由来するお地蔵さんです。

居醒めの清水

日本武尊ゆかりの泉。古事記や日本書紀に日本武尊が伊吹山の荒ぶる神を退治に行った際、牛のように大きな白猪（日本書紀では大蛇）に化けた荒ぶる神が、ふらせた大雨で正気を失った日本武尊が清水で体を冷やして正気を取り戻したことから、居醒の清水と呼ぶようになったとあります。江戸時代、貝原益軒の『木曽路之記』にも「醒井の水は、古来名を得し所也」と、日本武尊の話を詳しく紹介しています。雲仙山に降り注いだ雨が地下を流れた居醒の清水は梅花藻が咲く美しい地蔵川の源泉です。

御茶屋御殿跡

柏原宿の西側に、「御茶屋」と呼ばれる一帯が広がっています。ここにはかつて御茶屋御殿とよばれる御殿が建っていました。文献によりますと、街道に面した二つの門の間口は42間、奥行は38間を数えたとあります。三代将軍徳川家光によって建立され、元禄2年（1689）に廃止されるまでの66年間、将軍休泊のための御殿として使われました。今ではわずかに井戸跡が残るだけです。

柏原宿

江戸日本橋から数えて60番目にあたり、美濃から近江に入り、最初に訪れる宿場で、規模は5町にまたがり13丁（約1.4km）もありました。本陣、脇本陣各1、旅籠22軒、人口は1.468人、総戸数344戸と近江の宿場の中でも賑わった宿のひとつです。近くに伊吹山がそびえ、古くから薬草の産地で、ここで採れた良質のヨモギで作ったもぐさは、伊吹もぐさとして街道の名物でした。現在は、広重の浮世絵に描かれている「伊吹堂亀屋左京」の1軒だけが残っています。毎年7月に行われる「やいと祭り」は宿場と周辺地域をあげて賑わいを見せます。

寝物語の里

野瀬山の麓から長久寺にかけて、楓の大木は１９本を数えます。江戸時代はすべて松でした。楓は、明治以降に植栽されたもので樹齢１００年ほどになります。もと徳川幕府の直轄地であった長久寺は「寝物語の里」として知られています。源義経が、兄、源頼朝の追討を逃れて東国へ去ったのち、そのあとを尋ねてきた義経の家臣江田源蔵広成が、宿の主人と寝物語をするうち、偶然その話を隣国の宿に泊まっていた静御前が耳にし、義経とめでたく再会、ともに旅だった…という話が残されています。

柏原宿歴史館

大正6年（1917）に建てられた旧松浦久一郎邸を改築したもので、平成12年（2000）、国の登録有形文化財に指定されました。主に江戸時代の柏原宿の史料を常設展示しています。

- TEL：0749-57-8020
- 開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 入館料：一般300円
- 休み：月（祝日の場合は翌日）、年末年始

伊吹もぐさ伊吹堂亀屋佐京

伊吹山は古来、薬草の宝庫として知られていました。ここで産する蓬は伊吹艾（もぐさ）となる良質のもので、江戸時代には10軒を越える艾を売る店があったといわれています。「初旅は灸も支度の数に入り」と川柳に謡われるほど、旅の必需品であった艾も明治以降、西洋医学の普及と街道の衰退に伴い低迷していきます。今では、わずかに伊吹艾本舗「亀屋左京」一軒を残すのみとなりました。

不破の関跡

壬申の乱の後、不破道の重要性から関が設置されました。東海道の伊勢鈴鹿関、北陸道の越前愛発（あらち）関と共に東山道の美濃不破関として定められました。後年、東山道を通行する人や荷物から関銭を徴収するようになりました。

関ヶ原古戦場

徳川家康が率いる東軍と石田三成が率いる西軍が戦った天下分け目の合戦の舞台。付近一帯には、当時の各武将の陣跡に石碑や幟が立っています。家康が最後に陣地をはった場所のそばにある岐阜関ケ原古戦場記念館（入館料：一般５００円）は関ヶ原の戦いの歴史を五感で体験できる施設です。